

あ と が き

生成AI(人工知能)ブームのきっかけとなった対話型AI「ChatGPT」を、米オープンAIが2022(令和4)年11月30日に公開しました。

以来、企業の生成AIへの注目は急速に高まり、今では、多くの企業が生成AIの可能性を見出し、自動化の取り組みを拡大して、DXを加速させています。DX推進は、業務効率化や生産性向上が図れるばかりではなく、省人化・省力化によって人材を有効活用し、深刻な人手不足解消にも有効と言われています。

そうした中、2023年度は、本会にとってDX推進へ本格的に踏み出した年となりました。事業および業務のデジタル化を戦略的に実行するために、2023年4月にデジタル推進局デジタル推進戦略室を新設しました。また、同年7月にはデジタル推進企画委員会を設置し、これにあわせて外部のITサポートメンバーを加え、デジタル化に関する企画・立案・審議・実行体制を強化しました。今後もデジタル環境の整備、デジタルリテラシーの向上、ペーパーレス化、業務フローの見直し、そして組織風土の変革を目指していく所存です。

さて、本会は、2012年4月に東京都から公益財団法人として認定されました。東京都民の予防医学に関する知識の普及を図るとともに、疾病予防のための各種健診・検査、健康支援および健康教育等を行い、もって都民の健康を守り、これを向上させ、福祉の増進に寄与し、公衆衛生の向上に資することを目的としています。本会は、予防医学の先導者としてその使命を果たすべく役割を担っています。また、公益法人には、不特定多数の者の利益の増進に寄与するために公益目的事業を行い、その事業活動を社会に対して広く情報開示することで、法人自身が一層の説明責任を果たしていくことが求められています。

「東京都予防医学協会年報」は、本会の1年間の事業活動の成果を学術的観点からまとめた報告書です。冊子版のみならず、ホームページで公開することで、多くの方に本会の事業活動を知っていただくための成果物であると考えています。本会の関係者はもちろんのこと、多くの方々に目を通していただけると幸いです。

最後に、2025年版(2023年度活動報告 通巻第54号)発行にあたり、ご執筆いただきました先生方、東京都をはじめとする関係機関の皆様にご指導ご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。また、ご協力いただきました役職員の皆さんにもお礼申し上げます。

今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2025年3月

公益財団法人東京都予防医学協会
専務理事 前田 秀喜